

氏名	金野 倫子	部署	共通教育科	職名	教授
研究分野	老年精神医学、睡眠医学、精神病理学、女性心身医学				
学位	博士(医学)				
学歴	1990年東北大学医学部医学科卒業				
経歴	2014年10月～日本大学医学部精神医学系精神医学分野診療准教授、2017年10月～埼玉県立大学保健医療福祉学部教授				
所属学会(役職)	日本老年精神医学会・専門医・指導医・評議員、日本睡眠学会・評議員、日本精神神経学会専門医・委員会委員、日本女性心身医学会・認定医・評議員、日本総合病院精神医学会・専門医 他				

【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	睡眠のみかた	単著	新興医学出版社,p94-95	金野 倫子, 千葉 茂	2019.2
2	睡眠学	単著	朝倉書店	金野倫子	(in press)
(2) 論文					
1	REM sleep behavior disorder predisposed by neuroleptic malignant syndrome	共著	Sleep and Biological Rhythms, 2019; 17: 155-157	Konno M et al.	2019.1
2	「“治療可能な認知症(treatable dementia)”の現在—その可逆性を考える—」序文	単著	日大医学雑誌77(5): 287	金野 倫子	2018.1
3	認知症における不眠への対応・視点と方法	単著	睡眠医療12: 513-522	金野 倫子	2018.12
4	高齢者における睡眠の問題とメンタルヘルス	単著	精神医学 61(1): 11-22	金野 倫子	2019.1
(3) 学会発表					
1	該当なし				
(4) その他					
1	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・協力研究員				2018.4～現在
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	該当なし				
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	心の健康	2018.4～2018.7	人間の精神活動を多角的に捉える視点を提示し、双方向性講義を試みた。		
2	精神医学	2018.4～2018.7	精神医学の知識が系統的に蓄積できるように精神医学診断体系や治療の中心となる考え方を明確に示しながら講義を進めた。また、精神症状や、精神疾患についてより具体的なイメージを持って検討できるようにイラストや動画を活用した。		
3	精神医学概論	2018.4～2018.7	精神医学診断体系や治療の中心となる考え方を明確に示しながら講義を進めた。また、精神症状や、精神疾患についてより具体的なイメージを持って検討できるようにイラストや動画を活用した。		
4	精神保健学	2018.4～2018.7	精神保健学のキーワードとなる精神医学や心理学の概念、統計データの捉え方について詳しく解説し、その上で現代における精神保健学上の問題点をライフサイクルに沿って解説した。		
5	精神医学Ⅱ	2018.10～2019.2	精神医学における診断、治療、精神疾患と社会の関係における問題などについて、自ら考え、取り組むことができるように、多様なテーマを様々な形式で取り上げ、講義＋小演習を行った。		
5	老年学(1コマ)	2018.5	「“年をとると丸くなる”は本当か」をテーマとして、加齢に関連する脳と心の変化を解説し、器質性精神障害との関係について論じた。		
5	救急災害学(2コマ)	2018.7	災害時の精神的な変化・関連する精神疾患とその対応に関しては正常心理との連続性・非連続性に着目して解説を行い理解が深まるようにした。救急現場における精神医学的なアプローチについては、状況別の対応という観点から知識が整理できるよう解説した。		
5	理学療法特別演習(1コマ)	2018.12	国家試験を踏まえて、これまでの精神医学的知識を整理し、図解を活用し理解を図った。		
5	精神保健支援論	2018.4～2018.7	学生の研究課題に関するディスカッションを通して、各学生における精神保健支援の視点の涵養を図った。		
5	高次脳機能と病態制御(6コマ)	2018.12～2019.2	古くて新しいジャクソニズムの視点から、異常精神現象と高次脳機能の共通構造を取り出し、研究や治療における新たな取り組みを志向する際に役立つ視点を解説した。		

<b>(2) 演習</b>			
1	IPW演習	2018年度後期	多職種連携について症例を検討しつつグループワークを指導した。次年度のIPW実習にスムーズにつながるよう、能動的に情報を収集する必要性への気づきを促した。
<b>(3) 実習</b>			
1	IPW実習	2018.10	実習において、ケースの細やかな検討と正確な把握がIPWIにおける問題解決においても不可欠であることへの気づきを図った。
<b>(4) 論文指導</b>			
1	修士課程	2018.4～2019.2	副指導1名
2	博士課程	2018.4～2019.2	副指導5名
<b>(5) その他</b>			
1	該当なし		
<b>4. 社会貢献活動</b>			
<b>(1) 講演会、研修会等の講師</b>			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	認知症カンファレンス	第一三共株式会社	「最近の高齢者外来事情-物忘れの事例化を考える-」
2	埼玉県立大学一般公開講座	埼玉県立大学	「職場のメンタルヘルス・ストレス・うつ・睡眠」
	開催年月		
			2018.5
			2018.5
<b>(2) 国、自治体、財団法人等における委員等</b>			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	埼玉県運営適正化委員会苦情解決合議体	委員	2017.11～現在
2	埼玉県運営適正化委員会運営監視合議体	委員長代理	2018.3～現在
<b>(3) ジャーナリズムでの発言</b>			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
<b>5. 学内運営(委員会委員)</b>			
1	保健委員会委員		
2	障害学生アドバイザー		
3	専門職連携を学ぶ講座実施部会		
<b>6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)</b>			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
<b>7. 特許の保有状況</b>			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
<b>8. 特記事項</b>			
	該当なし		